平成３０年度　地域でつながる家庭教育事業
家庭教育応援プロジェクト　フォローアップ研修会　より

去る６月３０日（土）に、御蔵入交流館を会場に県社会教育課の事業である家庭教育応援プロジェクト「フォローアップ研修会」を開催しました。講演内容等について紹介します。

○　講演Ⅰ
・講師　親業訓練インストラクター　大屋　弘子　氏
・講演テーマ　「家庭教育は、子どもの『自己肯定感』と『生きる力』を育む原点」
講演では、「子ども」と「親自身」の関係づくりに大切な三本の柱
①　子どもの話に耳を傾ける（聞く）
②　親の本音を語っていく（語る）
③　対立があったら（話し合う）
についての話や、相手の心に届く話し方について、参加者同士でグループ・ペアになり、親役と子ども役等に分かれ、ロールプレイで体験的に学びました。

○　講演Ⅱ
・講師　ミュージシャン（猪苗代湖ズ）渡辺　俊美　氏
・講演テーマ　「４６１個の弁当は、親父と息子の男の約束Ｐａｒｔ２」
渡辺俊美さんが主演の「パパのお弁当は世界一」の上映会を行いました。この話は、高校３年間、娘のためにお弁当を毎日作り続けた父親とそのお弁当を毎日食べた娘の感動の物語です。その後、お弁当が栄養だけではなく、親子のコミュニケーションツールになっていることや、生演奏によるミニコンサートですばらしい歌を披露していただきました。

今回の研修会では、ロールプレイ、映画の上映会、ミニコンサート等、バリエーションに富む講演会にしたことで参加者の方々から好評の声を多数いただくことができました。

南会津夢教育学校紹介
～　南会津っ子一人一人の夢　実現のために　～

下郷町立旭田小学校　「校歌とともに歩む地域に密着した学校」

旭田小学校は、昭和４９年７月、旧旭田中学校の敷地（現在地）に移転し、昭和６０年１月の校舎改築完成にともない現在の校舎で教育活動を行っています。もともとが中学校の敷地だったことから、大変広い校庭を有しており、その上自然豊かな環境のため校庭の雑草が毎年勢いよく育っています。本校の校歌（１～３番）の３番目の歌詞はそのことに対する取組が書かれています。

「あつい草とり　寒い冬
つねにたゆまず　励むわれら
日本の尊い使命
ああわが学びや　ここに見よ」

草取り大会　優勝班

草取り大会の様子

最初に、この校歌を聴いたとき１，２番と対比してとても具体的な内容に驚いたものでした。実際に本校ではその歌詞のとおり、毎年、縦割り班による「草取り大会」を実施し、除草した量を測定、優勝班にトロフィーを授与するという取組を行っています。またその他にも「地域クリーン活動」や毎朝の奉仕活動・委員会活動で除染作業を行っています。自分たちの学校環境を自分たちでしっかり維持しようとする意識が着実に定着していることを物語っています。

旭田小体育館　校歌額

子どもたちだけでは行き届かないところは、保護者・地域の皆様や町教育委員会の協力で補っていただいています。まさに旭田小学校は「地域と共にある学校」です。このように一見大変なことも、全員がチームとなってよりよくしていくための環境と受け止め、その中で子どもたちを育成しています。そして、子どもたちは自らそれに応えようと努力する姿勢を身に付けてきています。校歌の歌詞のように「つねにたゆまず励み、尊い使命」をそれぞれがつかみ取ってくれるよう、教職員一同願っています。

（２）第１回全校草取り大会
５月１７日（水）
保護者の皆様のご協力で見違えるようになった校庭でしたが、あっという間に雑草が生えてきました。１７日水曜日に、縦割り班による全校草取り大会を実施しました。どの班も一生懸命に取り組んでいましたが、最終的に６班が他を圧倒して優勝しました。

協力や取り組みの素晴らしさはもちろんでしたが、校庭環境もよくなりました。
児童の皆さんの取り組む姿勢に、「大あっぱれ！」です。

←優勝した６班　記録１，４００グラム

平成２９年度　学校だよりから

「新任校長として」

檜枝岐村立檜枝岐小中学校
校長　鈴木　路人

校長という大きな責任を背負い職務を全うする、そんな強い思いをいだき檜枝岐小中学校に着任した４月。そこには、子どもたちに寄り添い、子どもたちのためにがんばる先生方がいました。その献身的な姿を受け、「校長として何ができるだろか。」という課題と目標が明確になりました。今、取り組んでいることは、「先生方の時間の確保」です。校長自らが足となり先生方の時間をつくりだすことから始めたいと思っています。

また、檜枝岐村の子どもたちは１５歳で親元を離れ進学するため、子どもたちも保護者も「１５の春」への想いがあります。小中一貫校としての学校づくりに、これまで先生方や村の方々、そして保護者の方々が一つ一つ積み重ね取り組んできました。現在では、９年間を見据えた教育課程が実施され、小学校、中学校の連携がスムーズに図られています。さらに「２４の力」を掲げ、家庭や地域と連携して一人一人の成長を見守っていきたいです。校長として、子どもたちや先生方の夢づくりのお手伝い、そして、保護者の方々や地域の方々の思いを大切にして、地域と共にある学校づくり、県内外に発信できる学校づくりに全力で取り組みたいと思います。

「故郷でのスタート」

只見町立朝日小学校
教頭　菅家由紀子

教頭として初めて勤務する学校が、故郷只見町の朝日小学校になり、仕事上の不安もありましたが、それ以上に生まれ故郷での勤務ということの方が不安でした。それは、これまで故郷と積極的に関わってこなかったからです。地域のために活動している父や３０年以上社会体育に関わっている兄の姿を見て、私は……。

そして４月。「いやあ、ゆっこちゃん、帰ってきらっちぇ、よがったなあ。」「芳美さん（兄）に、ばがやっけになってます。」等と、たくさんの地域の方、保護者の皆さんから声をかけていただきました。水道修理を依頼したら、同級生が直しに来ました。私が知っている・私を知っている地域でのスタートにより、目には見えないけれど、とても大きな力に支えられ、毎日楽しく仕事をすることができています。ありがとうございます。まだまだやらなければならないことの半分もできていないように感じていますが、「おかえり」とあたたかく迎えてくださった只見町と南会津のために、私ができることを見つけ、そして、これからも「仕事は楽しく！」を信条にがんばっていきたいと思います。

いきいき南会

「南会津の地で」

南会津町立桧沢小学校
教諭　関根　早紀

着任地を知らせる一通の紙が手元に届いた日、緊張して震える手で開いたことを覚えています。「南会津町立桧沢小学校」の文字を見た時、「・・・ん？どこだろう。」が正直な感想でした。すぐに情報収集を始め、自然豊かな土地にある小さな小学校であることを知りました。私自身、出身小学校は、全校生１００名ほど、同級生は１４名という少ない人数でしたので、親近感、嬉しさ、期待など、さまざまなことを感じました。

４月の着任式から、３ヶ月があっという間に過ぎました。忙しく過ぎていく日々の中でも、学校の良いところをたくさん見つけることができました。まずは子どもたちがたくましく、素直であること。少人数の学校ですが、全員の力が合わさった時の力は、素晴らしいものがあります。また、上級生が下級生を助けてあげるのが当たり前という良い伝統も感じます。さらに、保護者の皆様も大変協力的で、日々の子どもたちの学校生活を支えてくださっています。

季節によって表情を変える南会津の自然とのふれあいも、楽しみの１つです。近く行われる祇園祭も、昔から大切にされてきた大きな行事で、大変な盛り上がりだと聞いています。自然溢れる南会津の地で、元気な子どもたちが毎日笑顔でのびのびと過ごせるように、これからも成長のお手伝いをさせていただければと思います。

「日本有数の豪雪地帯、只見」

只見町立只見中学校
教諭　渡部　兼介

４月１日、私は人生で初めて、福島県南会津郡只見町に足を踏み入れました。このときまで福島県の出身でありながら「只見町」という地名は耳にしていても、どのような場所なのかを知ることがありませんでした。

今年の３月末、東京都東久留米市の前任校で只見中への赴任が決まり、不安と期待が半分ずつ入り混じった複雑な心境で「只見町」と検索してみました。すると衝撃的な文字が眼に飛び込んできました。･･･「日本有数の豪雪地帯」。この瞬間、不安が期待を大きく上回りました。

出身である新地町の冬は、たまに積雪がある程度。大学のときから暮らしていた東京でも積雪は珍しいものでした。冬、そして雪が好きな私にとって、冬を感じる雪が降ることは、アラサーとはいえども、心躍る出来事でした。そんな生活から、今度は一気に「豪雪地帯」。只見町に来てから、会う方々皆さんが「冬は大変だよ」と、とてもありがたいアドバイスをくださり、心の底から怯えていました。

しかし、日々一生懸命に活動する生徒たちの熱い姿や、只見町の人々の温かさに触れ、越冬への心配も吹き飛びました。この恵まれた只見中学校に教員として赴任したことに縁を感じ、生徒のために、そして自分自身のためにも、日々の職務に邁進していきたいと思います。

編集後記

「今年の梅雨は雨が少ないな･･･。」と思っているところに、平成最悪の西日本豪雨が起き、改めて自然災害の恐ろしさを感じました。日頃から、防災に対する意識を高め、万が一に備えることが大切です。これを機に、南会津の防災（洪水）ハザードマップを再度確認してみてはいかがでしょうか。１学期末のお忙しい中、玉稿をお寄せくださった皆様に心より感謝申し上げます。